

# 幼 児 の 教 育

昭 和 六 年 九 月

## 自 分

彼れに與ふるものは我れだ。子どもに與ふるものはわれ／＼の自分だ。教育者はとりつぎ手、とりつぎ方のうまい人に止まらない。與へるに足る自分をもつ著であらねばならない。少くも、あまりつまらない自分を與へては濟まない。

秋澄めり。何人も自分を思ふ時だ。秋静か。自分を養ふに一番いい時だ。子どもの爲の教育に忙しい裡にも、自分の爲の教育が氣になる季節だ。教育學、心理學、兒童研究、保育法、保育項目の研究の間に、自分の爲の本を讀みたい時だ。

この秋を、何によつて、あなたの自分を養はんとするか。

子どもの中に居るものは、子どものやうにやらなければならぬといはれる。しかし、自分を養ふことをまで忘れる程に、そんなところまで、子どものやうになつてはなるまい。それは、あまりに子どもの通りであり過ぎる。

子どもの爲には、あなたがあるからいゝ。あなたの爲には、何があるか。再び問ふ。この秋を、何によつて、あなた自身を教養せんとしてゐられるか。